

第168回南極地域観測統合推進本部総会

議事の記録

1. 日時： 令和8年6月30日（火）10:00～12:00
2. 場所： 文部科学省 3F1 特別会議室及びオンライン（ハイブリッド開催）
3. 出席者：
 - （本部長）
松本 洋平 文部科学大臣
 - （副本部長）
増子 宏 文部科学事務次官
 - （委員）
畠山 貴晃 日本学術会議事務局長
坂本 修一 文部科学省研究開発局長
河瀬 和重 国土地理院長
野村 竜一 気象庁長官
（代理：気象庁大気海洋部 環境・海洋気象課 課長補佐 平原淳）
瀬口 良夫 海上保安庁長官
（代理：海上保安庁海洋情報部沿岸調査課 課長 山尾理）
石川 尚人 国立大学法人富山大学 都市デザイン学部地球システム科学科 教授
宇都 正太郎 国立大学法人北海道大学北極域研究センター 研究員
大城 和恵 社会医療法人孝仁会札幌孝仁会記念病院 医師
高村 ゆかり 国立大学法人東京大学未来ビジョン研究センター 教授
瀧澤 美奈子 科学ジャーナリスト
福井 学 国立大学法人北海道大学低温科学研究所 特任教授
森本 真司 国立大学法人東北大学大学院理学研究科 教授

(幹事)

新田 浩史	日本学術会議事務局参事官（審議第二担当）
寺岡 秀礼	総務省国際戦略局技術政策課長 （代理：総務省国際戦略局技術政策課 技術調査専門官 小出孝治）
和氣 加奈子	国立研究開発法人情報通信研究機構電磁波研究所長
布施 吉章	外務省国際協力局地球環境課長 （代理：外務省地球環境課 課長補佐 北尾るみ子）
古田 裕志	文部科学省大臣官房審議官（研究開発局担当）
三宅 隆悟	文部科学省研究開発局海洋地球課長
野木 義史	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所長
伊村 智	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所副所長
平譚 享	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所副所長
木庭 愛	厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部感染症対策課長 （代理：感染症対策部感染症対策課 主査 長橋和希）
松田 竜太	水産庁増殖推進部研究指導課長 （代理：水産庁増殖推進部研究指導課 研究管理官 日高浩一）
丸田 晋一	国土交通省総合政策局技術政策課長
長谷川 裕之	国土地理院企画部長
沼尻 誠	気象庁総務部総務課長 （代理：気象庁 大気海洋部 環境・海洋気象課 南極観測事務室長 藤田建）
上手 研治	海上保安庁総務部政務課長 （代理：海上保安庁海洋情報部沿岸調査課 課長補佐 新崎泰弘）
西村 学	環境省自然環境局自然環境計画課長
光畑 和典	防衛省人事教育局人材育成課長 （代理：防衛省人事教育局人材育成課人材育成室 室長 大森紀興）

4. 議 事：

- (1) 松本文部科学大臣より挨拶があった。
- (2) 事務局より、当日の議題・配布資料について確認があった。審議事項16については、人事に関わる案件のため、運営規則に基づき非公開の取扱いとすることになった。
- (3) 以下の議題について報告及び審議がなされ、審議事項については原案のとおり了承された。

《報告事項》

1. 第66次越冬隊・第67次観測隊等の活動報告及び現況について
2. 第67次南極地域観測における輸送協力について
3. 令和8年度南極地域観測事業予算の概要について
4. 南極条約協議国会議（ATCM）の状況について
5. 南極環境保護議定書附属書VIの締結及び南極環境保護法の改正について
6. 南極地域観測統合推進本部各委員会等の審議状況（令和7年11月以降）について
7. 南極地域観測70周年記念事業等について

《審議事項》

8. 第68次南極地域観測隊の行動計画（案）等について
9. 第69次南極地域観測計画（素案）の概要等について
10. 南極条約第7条5に基づく通告のための電子情報交換システム（EIES）について
11. 次期輸送体制の検討について（案）
12. 輸送体制の変更を踏まえた今後の南極地域観測事業の在り方に関する検討について（案）
13. 南極地域観測統合推進本部運営規則の改正について（案）
14. 南極地域観測統合推進本部「輸送体制の変更を踏まえた今後の南極地域観測事業に関する特別委員会」の設置について（案）
15. 南極地域観測第XI期6か年計画（基本的な考え方等）について（案）
16. 第68次南極地域観測隊副隊長（案）及び第68次南極地域観測隊員、同行者（案）について

《その他》

17. 南極地域における地名等のローマ字表記について
18. 最近の主な成果

主な意見は次のとおり。

- 報告 1. 第66次越冬隊・第67次観測隊等の活動報告及び現況について
- 報告 2. 第67次南極地域観測における輸送協力について
- 報告 3. 令和8年度南極地域観測事業予算の概要について
- 報告 4. 南極条約協議国会議（ATCM）の状況について
- 報告 5. 南極環境保護議定書附属書VIの締結及び南極環境保護法の改正について
- 報告 6. 南極地域観測統合推進本部各委員会等の審議状況（令和7年11月以降）について
- 報告 7. 南極地域観測70周年記念事業等について

【大城委員】

質問は大きく2つ。1つ目は、水没の事故のことについて。ルートを外れたことによって水没したというふうに御説明があったが、ルートを外れたことが問題なのか、ルート上にも氷の厚さが問題なのか。あとは、提案というか質問なのだが、例えばヘリコプターなどは、緊急時の膨張式フロートがついており、水没しないような装置があるのだが、そのようなものを雪上車やスノーモービルにつけることができるのか。

2つ目は、なかなか維持・修繕作業や力仕事也多そうだと思うとお話を伺っていたが、女性隊員が増えたことによってメリットもあると思うものの、逆に女性が多いことで困ったことや問題はなかったか。

【伊村国立極地研究所副所長】

まず、スノーモービルの水没事故について。今回、ルートの上での氷厚自体は確認を適宜しており、これは問題なかった。問題は、このスノーモービルは2人乗りで走っていたが、ルート上にあった凸凹にハンドルを取られてルートを外れ、ルート脇の氷の薄いところにずれ込んでしまったということである。ルート上の氷厚自体は確認していたので、これは問題なかったわけだが、どうしてもそのルートを外れること自体はあり得るのである。今後は周辺の氷厚も同時に測っておく必要があると我々としては認識し、対策を考えているところ。

また、雪上車、またはスノーモービルにフロート等をつけるということは、不可能ではないかと思う。これまでそのような安全装置も聞いたことはない。

女性隊員に関する質問だが、確かに力仕事の面で多少足りないというところはあるかもしれないが、実際の昭和基地運営上、あまり大きな問題とはならないのではないかと私は

考えている。実際、これまでで最大の女性越冬隊員数を経験された藤田越冬隊長から何かコメントがあればお願いしたい。

【藤田第66次越冬隊長】

女性隊員が多くても、昭和基地には重機類が十分な量があり、力仕事ではなくて重機等を利用した作業などもやっていただいているので、特に問題はなかったと思っている。

【瀧澤委員】

毎回、この委員会に出席しており、数年前までは、南極は気候が安定していると思っていたのだが、回を重ねるごとに、大きな気候の変化に見舞われていて、隊員の皆様方、関係者の方々の御苦労がさらに重なっていると感じている。

科学者の方々もたくさん参加されているので、この現場で観測した結果は論文で発表され、科学界で共有され、国民にも共有されていくという通常の情報の伝達過程があるかと思う。一方で、今起きているこういった激変が、世の中の皆さんにもっと速やかに伝達される必要もあるのではないかと感じている。メディアの末席にいる身としては、自分の力の足りなさも感じるころではあるが、例えば極地研のホームページや、あるいは関連する環境省さんとの連携といったところから、今の南極の状況の激変状況というものを広く国民に伝えるような取組というのはあり得るものなのか。国際的な連携等も含め、何か動きがあれば教えていただきたい。

【伊村国立極地研究所副所長】

環境変動ということだが、まず、例えば最初に御紹介した、この3月5日にこれまでで最高気温が記録されたというのは今年の数字であり、問題になるのはこれが大きなトレンドとして、今後どう変わっていくかという部分ではないかと思う。

ただ、昭和基地周辺においても、穏やかな温暖化自体は確認されているので、気温の上昇がゆっくりと進んでいることは間違いない。今年については、特にトピックス的にこのような高温が記録されたというところであり、これは切り離して考える必要はあるかもしれないというのが現状である。

海の温度、海水温のほうの上昇もある程度記録されているため、これが場合によっては連続するということであれば、昭和基地の氷状の不安定化につながっていくことも考えられる。

現状、直接的に我々が今、今年感じている変動が、全体の大きなトレンドそのものに当たるかどうかというところがはっきりしないため、そこは大きく強調することはできない

と思っている。ただ、実際にそのような傾向があることははっきりしており、それについてはホームページ等で論文の紹介として出している部分はあるため、そちらは御覧いただければと思う。

【瀧澤委員】

引き続き注視していかなければいけないと思うので、よろしく願いたい。

〔審議 8. 第68次南極地域観測隊の行動計画（案）等について〕

【宇都委員】

少し気になっているのは「海鷹丸」の状況である。67次ではエンジントラブルで当初の観測ができなかったという御説明があった。68次でも「海鷹丸」による別動隊の観測が一応計画されているが、「海鷹丸」の現状が分からないので、どうなのかということと、ワーストケースとして仮に「海鷹丸」が使えない場合、何か本隊の行動のほうで補完できるようなことというのは考えられるのか。

【伊村国立極地研究所副所長】

「海鷹丸」のトラブルが前回あったが、こちらの修理の状況については、最悪の状況ではないということは分かっている。現状としては、ターボチャージャー等を修理することによって、何とか9月には修理は終わられるのではないかとということ先方から聞いており、今のところ修理自体は大丈夫だと考えている。そのため、このような計画でいこうと思っている。

ただ、状況は分からず、トラブルが続くと、行けない可能性ももちろん残る。現状として考えているのは、「海鷹丸」で計画しているものを「しらせ」で代行することである。全てはできないものの、できる限りのことはやる。特に、現場に設置してある機器の回収等、こちらについてはできる限り「しらせ」でそれをサポートする、代わりにやるというところまでは何とか考えているところである。

【宇都委員】

了解した。

【三宅文部科学省研究開発局海洋地球課長】

本件、御了承いただいたものとして決定したい。

審議 9. 第69次南極地域観測計画（素案）の概要等について

審議10. 南極条約第7条5に基づく通告のための電子情報交換システム（EIES）について

審議11. 次期輸送体制の検討について（案）

審議12. 輸送体制の変更を踏まえた今後の南極地域観測事業の在り方に関する検討について（案）

審議13. 南極地域観測統合推進本部運営規則の改正について（案）

審議14. 南極地域観測統合推進本部「輸送体制の変更を踏まえた今後の南極地域観測事業に関する特別委員会」の設置について（案）

審議15. 南極地域観測第XI期6か年計画（基本的な考え方等）について（案）

（特に異議等なし）

【三宅文部科学省研究開発局海洋地球課長】

本件、御了承いただいたものとして決定したい。

（4）事務局から、次回の総会は令和8年10月を予定しており、それまでの間、緊急を要する案件などについては、本部連絡会に一任いただく旨の連絡があった。

— 了 —